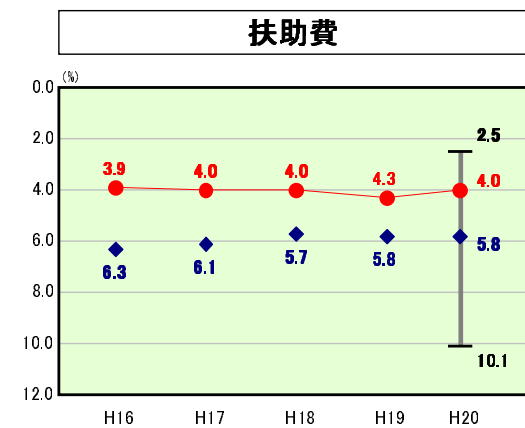
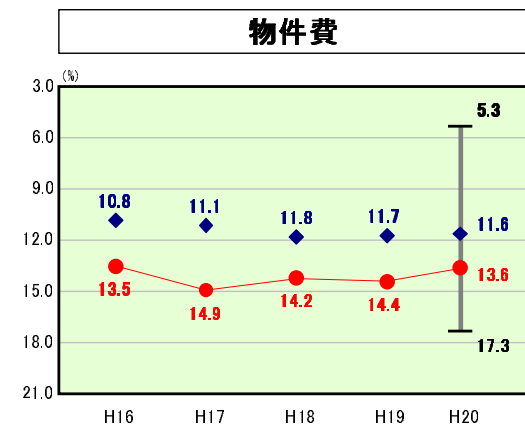
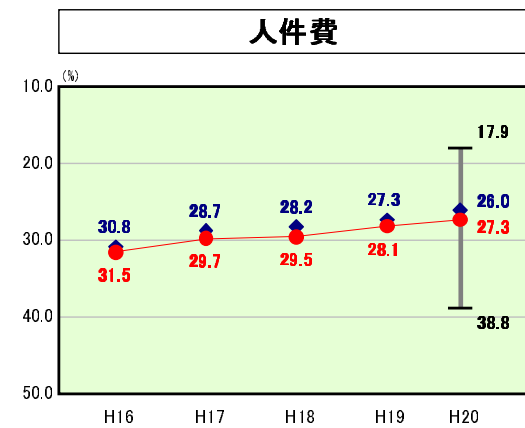
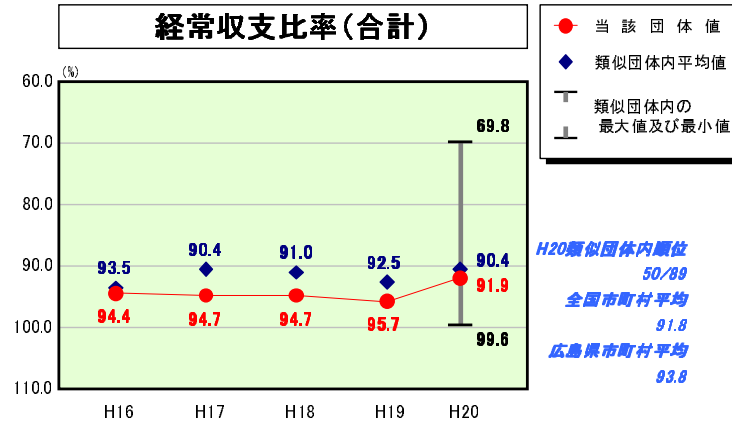
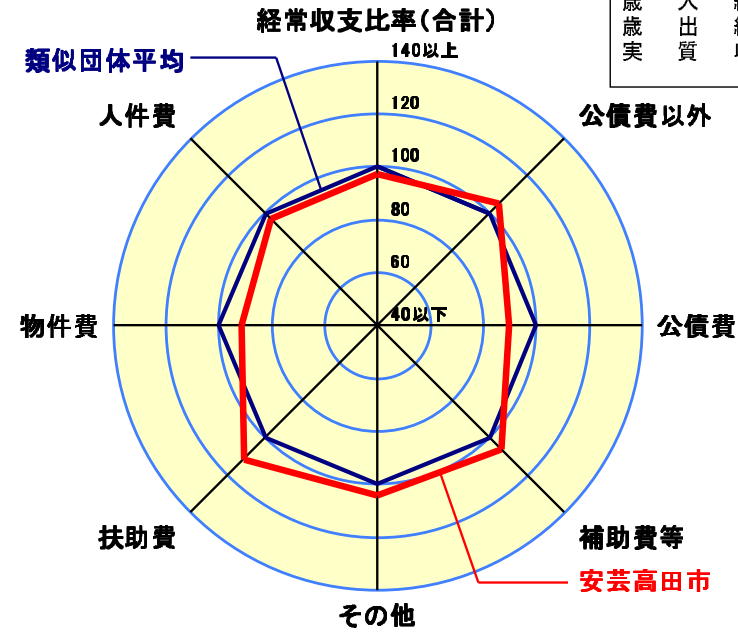


# 歳出比較分析表(平成20年度普通会計決算)

## 経常収支比率の分析



|        |                        |
|--------|------------------------|
| 人口     | 32,414 人(H21.3.31現在)   |
| 標準財政規模 | 537.79 km <sup>2</sup> |
| 歳入総額   | 19,391,730 千円          |
| 歳出総額   | 18,944,692 千円          |
| 実質収支   | 377,374 千円             |



- ※1 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- ※2 当該団体の八角形が平均値の八角形より外側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- ※3 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

## 分析欄

### 【経常収支比率】

経常収支比率は、年々増加傾向にあったが、普通交付税等の歳入経常一般財源の増加により平成20年度は前年度より3.8%減の91.9%となった。人件費は、退職者不補充や給与カットにより0.8ポイント減少した。物件費は、全体的な経常経費の削減により0.8ポイント減少した。公債費は繰上償還の実施により0.9ポイント減少した。なお公債費は平成22年度に償還のピークを迎え、以降年々減少する見込みである。補助費等は単市補助等の打ち切り等により、0.9ポイント減少した。繰出金は、後期高齢者医療や介護保険特別会計への繰出金が1.5ポイント増加した。簡易水道や下水道など公営企業会計への経常的な繰出金は年々増加傾向にあり、普通会計の経費圧迫の要因となることから、公営企業においては、独立採算の原則に立ち返り、事業全般の見直しや受益者負担の適正化に取り組み、基準外繰出金の削減を図る。今後、現在策定している財政健全化計画や公営企業健全化計画を基底にして、経常経費の更なる抑制に努める。

### 【人件費及び人件費に準ずる費用】

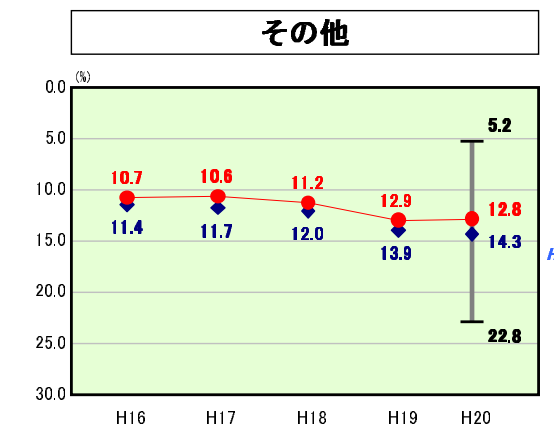
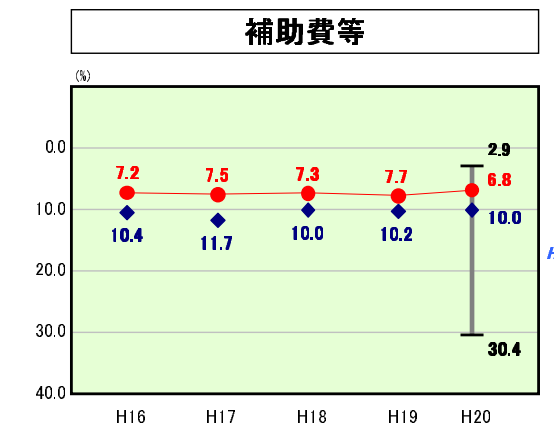
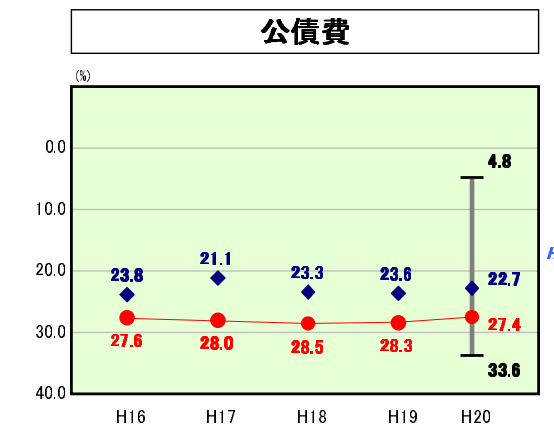
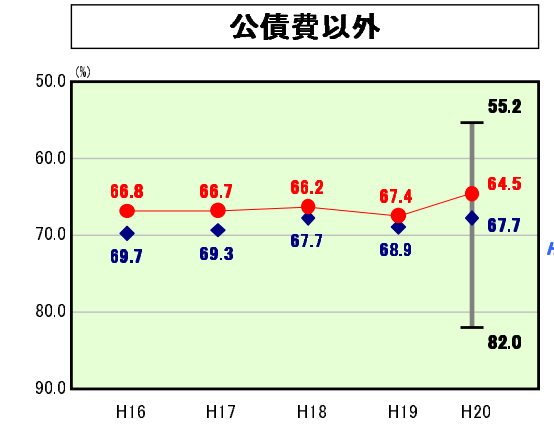
人口一人当たりの決算額は類似団体と比較すると若干高い。合併以降、新規採用の凍結に取り組んできたが、定員適正化計画の数値目標以上の削減を果たしているため、第2次定員適正化計画に基づき、今後は職員の年齢構成等を考慮しつつ適正管理を継続していくことが必要である。また継続実施してきた職員の給与カットは、平成22年度より廃止する。

### 【公債費及び公債費に準ずる費用】

人口一人当たりの決算額は類似団体と比較すると高い傾向にある。合併前後の投資的事業の重点実施により、公債費は今後数年上昇を続け、平成22年度に償還のピークを迎え、以降年々減少する見込みである。今後においては、補償金免除の高利の公的資金の繰上償還や、繰上償還の実施により、公債費負担の軽減を図るとともに、少子高齢化が進む中、世代間負担の公平性を保つため、地方債発行の抑制に努める。

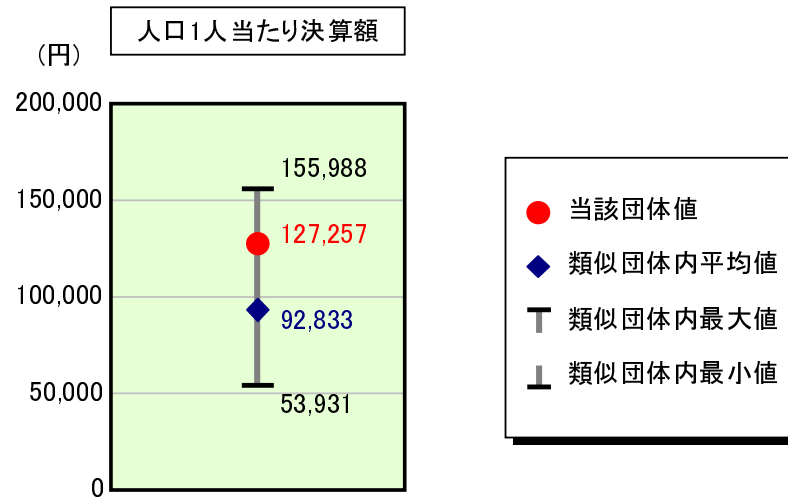
### 【普通建設事業費】

人口一人当たりの決算額は類似団体と比較するとやや低い。合併以前と比較すると、事業費も4分の1程度となっており、減少率も類似団体を上回っている。しかし、現在合併関連の事業が継続中であり、今後平成25年度までの特例期間での大型事業も予定されていることから、選択と重点化を徹底したうえで、事業の計画的、効率的な執行を図る。



# 歳出比較分析表(平成20年度普通会計決算)

## 人件費及び人件費に準ずる費用の分析



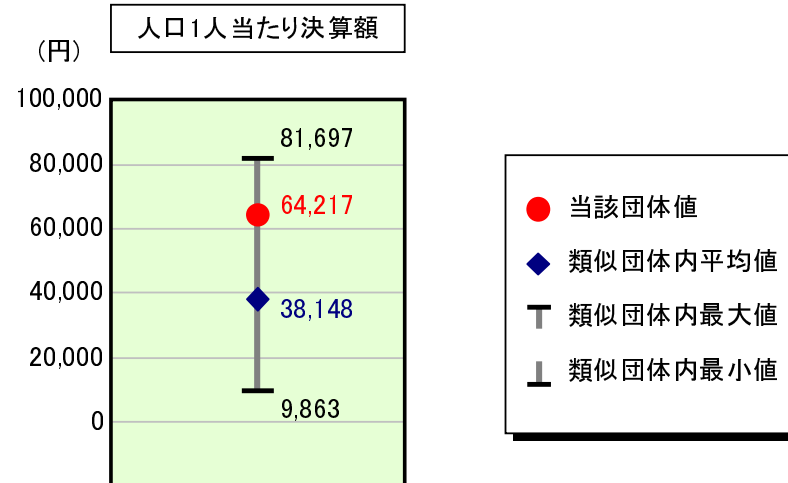
### 人件費及び人件費に準ずる費用

|                               | 当該団体決算額<br>(千円) | 人口1人当たり決算額 |            |        |
|-------------------------------|-----------------|------------|------------|--------|
|                               |                 | 当該団体 (円)   | 類似団体平均 (円) | 対比 (%) |
| 人件費                           | 4,130,966       | 127,444    | 86,128     | 48.0   |
| 賃金(物件費)                       | 17,285          | 533        | 5,108      | ▲ 89.6 |
| 一部事務組合負担金(補助費等)               | 68,620          | 2,117      | 6,398      | ▲ 66.9 |
| 公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)        | -               | -          | 1,409      | -      |
| 公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金) | -               | -          | -          | -      |
| 公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)        | 201,048         | 6,203      | 3,186      | 94.7   |
| 事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)         | 13,704          | 423        | 1,799      | ▲ 76.5 |
| ▲退職金                          | ▲ 306,719       | ▲ 9,463    | ▲ 11,195   | ▲ 15.5 |
| 合計                            | 4,124,904       | 127,257    | 92,833     | 37.1   |

### 参考

|                   | 当該団体  | 類似団体平均 | 対比(差引) |
|-------------------|-------|--------|--------|
| 人口1,000人当たり職員数(人) | 12.83 | 9.46   | 3.37   |
| ラスパイレス指数          | 97.6  | 95.8   | 1.8    |

## 公債費及び公債費に準ずる費用の分析

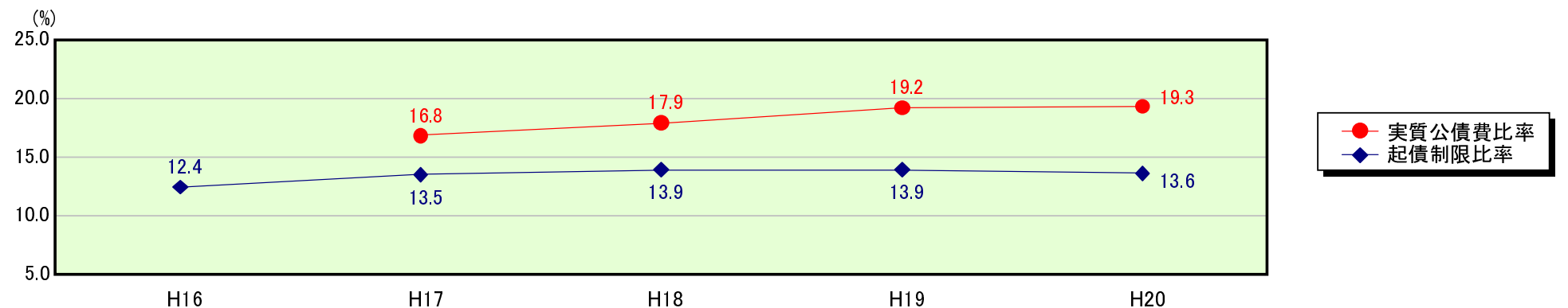


### 公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

|   | 当該団体決算額<br>(千円) | 人口1人当たり決算額 |            |        |
|---|-----------------|------------|------------|--------|
|   |                 | 当該団体 (円)   | 類似団体平均 (円) | 対比 (%) |
| 公債費充当一般財源等額<br>(繰上償還額及び満期一括償還地方債の元金に係る分を除く。)              | 4,189,134       | 129,238    | 63,504     | 103.5  |
| 満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの<br>(年度割相当額)等                 | -               | -          | 28         | -      |
| 公営企業債の償還の財源に充てたと認められる繰入金                                  | 538,838         | 16,624     | 19,951     | ▲ 16.7 |
| 一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金に充当する一般財源等額              | 154,515         | 4,767      | 5,160      | ▲ 7.6  |
| 債務負担行為に基づく支出のうち公債費に準ずるものに充当する一般財源等額                       | 18,898          | 583        | 2,433      | ▲ 76.0 |
| 一時借入金利子<br>(同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)                     | 512             | 16         | 18         | ▲ 11.1 |
| ▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額 | ▲ 2,820,375     | ▲ 87,011   | ▲ 52,946   | 64.3   |
| 合計  | 2,081,522       | 64,217     | 38,148     | 68.3   |

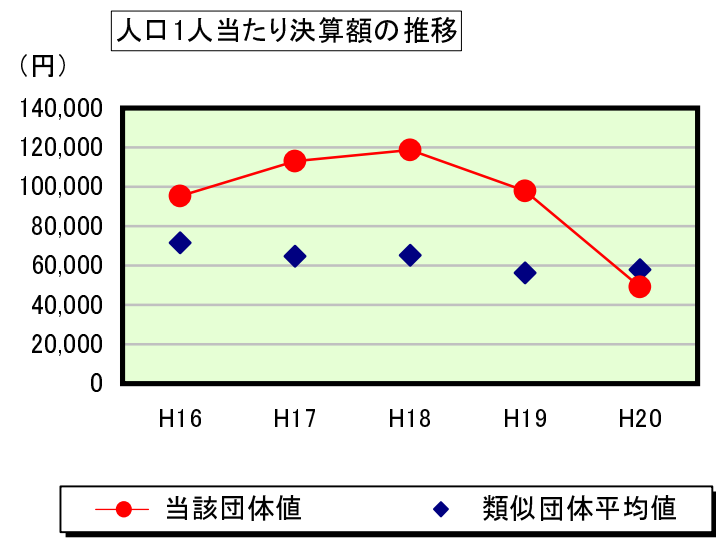
平成21年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体については、「-」としている(以下の項目について同じ。)

### ※参考 実質公債費比率及び起債制限比率の推移



# 歳出比較分析表(平成20年度普通会計決算)

## 普通建設事業費の分析



## 普通建設事業費

|         | 当該団体決算額<br>(千円) | 人口1人当たり決算額 |            |           |            |         |
|---------|-----------------|------------|------------|-----------|------------|---------|
|         |                 | 当該団体(円)    | 増減率(%) (A) | 類似団体平均(円) | 増減率(%) (B) | (A)-(B) |
| H16     | 3,232,115       | 95,278     | ▲ 55.9     | 71,554    | ▲ 31.5     | ▲ 24.4  |
| うち単独分   | 1,784,422       | 52,602     | ▲ 64.9     | 46,425    | ▲ 29.2     | ▲ 35.7  |
| H17     | 3,800,378       | 112,928    | 18.5       | 64,690    | ▲ 9.6      | 28.1    |
| うち単独分   | 2,785,234       | 82,763     | 57.3       | 39,427    | ▲ 15.1     | 72.4    |
| H18     | 3,947,574       | 118,720    | 5.1        | 65,235    | 0.8        | 4.3     |
| うち単独分   | 2,973,684       | 89,431     | 8.1        | 35,265    | ▲ 10.6     | 18.7    |
| H19     | 3,206,693       | 97,840     | ▲ 17.6     | 56,233    | ▲ 13.8     | ▲ 3.8   |
| うち単独分   | 2,795,501       | 85,294     | ▲ 4.6      | 32,240    | ▲ 8.6      | 4.0     |
| H20     | 1,592,578       | 49,132     | ▲ 49.8     | 57,848    | 2.9        | ▲ 52.7  |
| うち単独分   | 1,010,661       | 31,180     | ▲ 63.4     | 33,469    | 3.8        | ▲ 67.2  |
| 過去5年間平均 | 3,155,868       | 94,780     | ▲ 19.9     | 63,112    | ▲ 10.2     | ▲ 9.7   |
| うち単独分   | 2,269,900       | 68,254     | ▲ 13.5     | 37,365    | ▲ 11.9     | ▲ 1.6   |